

流れを変える技術



取締役 専務執行役員

小谷 武福

Taketomi Kotani

私たちの身の回りをみると今日は昨日と同じように見えますが、50年前と今を比較すれば非常に大きな変化をしていることを誰もが認めるでしょう。50年前にはテレビも無い時代でしたが、現在は携帯電話で自分が写した写真を送れる時代となっているのです。10年前には使われていなかったインターネットがわずか10年の間に全世界に広がりました。5年前に始まったADSL通信もあつという間に広がりました。これらは全て技術の発展から生まれているのです。

このような変化を生む技術はどのようにして生まれているのでしょうか。その一つは基礎研究の進歩であり、もう一つはその応用技術力の成果です。前者は長期に渡る基礎研究が可能な環境が必要ですが、後者は小規模な企業や組織での取り組みも可能であり、実際に、小さな組織が成果を生んでいるケースも少なくありません。インターネットは大学の学生達の情報技術から、パソコンもガレージを改良した部屋に集まった少数の技術者から生まれたと言われています。彼らは何か特別な才能を持っていたのでしょうか。

それは、夢とそれに向かっの飽くなき探究心ではなかったでしょうか。探究心の持続が技術の掘り下げの原動力となり、過去の壁を乗り越えた技術を生む場合があります。また、探究心は様々な分野の異なる技術との融合・連携を生み、その結果、過去の技術を飛び越える発見や発明につながって行くのです。

今後、技術は大きく変化をしないでしょうか。過去の歴史が示しているように、決してそのようなことはなく、今後は過去の50年を越えるスピードで大きく変わるでしょう。このような技術の流れの中で私達はどのように取り組むべきでしょうか。

私達は技術の成果をお客様に評価をいただくことで存在が許されている会社です。お客様の評価は常により良いものへと変化をします。現時点で大きな評価を受けている技術も、今後、継続して評価される年月は短いことを自覚することが大切です。成果の大きい技術は大きな利益を生むため、成果を上げた人達は往々にして次の新たな技術への取り組みが遅れ、競争力を急速に失う例も見受けられます。

求められる技術は常に動いています。これまでの技術の常識が正しいとは言えません。このように要求する側も変化しているのですから、常に変化の方向を考え抜いた上で物作りに取り組めば、どのような会社でも大きな評価が得られるチャンスがあるのです。

新しい技術への取り組みには、私達が培ってきた技術を一生懸命に磨き上げるとか、掘り下げるのみでは不十分ではないかと思います。私が最も大切だと思っている点は、そもそもの目的は何か、夢は何かなどと言った原点から考え直すこと、時には、これまで取り組んできた自分の考えを否定してみることも大切だと思います。

今後も急速な変化は続くでしょう。このような変化に遅れることなく先取りした取り組みができるのは若い技術者の皆さんです。若い技術者が先輩の技術者から教わった技術を自分のものとした上で、それを早く捨てて、新たな技術に取り組むことが「流れを変える技術」を生んでゆくことになると思います。